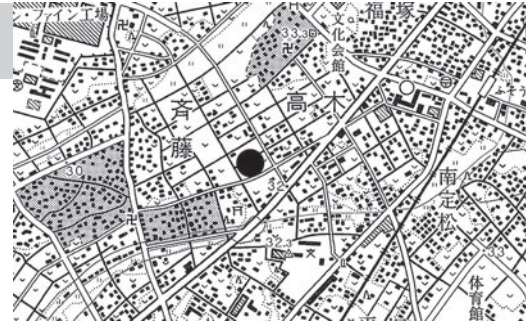


たかぎ 高木遺跡

所在地 丹羽郡扶桑町高木
 調査理由 県道草井・羽黒線建設
 調査期間 平成15年7月～11月
 調査面積 2,700㎡
 担当者 藤岡幹根・武部真木



調査地点 (1/2.5万「犬山」)

調査の経過 本遺跡は県道草井・羽黒線建設に伴う事前調査として愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として平成15年7月～11月の期間で調査を行った。調査面積は計2,700㎡であり、A・B・C・Dの4調査区に分割して進めた。

調査の概要 扶桑町は犬山市の南西方向にあたる扇状地帯にあり、調査範囲は微高地を横断する形となる標高28～32mの地点であり、西端は木曾川の支流（一之枝）であった旧河道に画される。木曾川にかけて周辺一帯の砂を多く含む土壌では、江戸時代は多くが桑畑であったが、近代以降今日まで守口大根や牛蒡などの生産が盛んであり、その特殊な栽培方法によって地表から約1～1.5mの深度まで溝状に攪拌されている。その結果、かつて畑地であった箇所では包含層および遺構の残存状況が極めて悪く、また、種芋等を貯蔵するための通称「イモアナ」と呼ばれる0.6×1m前後、深さ1.5m規模の方形土坑が今日まで多数掘削されている。こうして攪拌された耕作土中には、須恵器、東濃産山茶碗、瀬戸・美濃産陶器、近世陶磁器、近現代陶磁器類が含まれるが、すべて小片となっている。

近世以前の遺構は、旧流路から離れるB・C・D区で確認された。C区では幅2～3m、深さ50～80cmの溝がめぐる一辺10m規模の古墳と思われる方形の区画があり、遺物は検出されなかったが、B区で見つかった同様の規模と埋土の溝下層から古墳時代の土師器台付甕、須恵器壺、杯が出土している。D区では奈良時代の旧流路、これに重複する地点で幅約5m、深さ90cmの平安時代の溝、さらに溝埋積後のその上に鎌倉・室町時代の集石遺構がある。集石は大小の河原石からなり、一辺約4mの方形部分とこれに沿って帯状に伸びる幅30cm位の部分が認められ、石の間からは14～15世紀代の東濃産山茶碗、片口鉢、古瀬戸折縁皿、四耳壺片などが出土した。

以上のように大型の遺構を検出することができたものの、調査範囲全般に生活感が希薄であった。これが削平を原因とするものでないとするれば、墓域や耕作地など集落周囲の空間であったと思われる。

(武部真木)



03C区 方形区画溝



03D区 平安時代溝